



一音会が新聞に掲載されました



〔第3種郵便物認可〕

毎 日 新 聞

くらしナビ

—ライフスタイル—

講師の芦田くみさんの指導を受けながら、なめらかな指遣いでベートーベンの曲を演奏する栗田瑞夫さん（左）＝豊島区の一音会ミュージックスクールで、谷本仁美撮影



瀧崎之・東北大加齢医学研究所教授

楽器の演奏はスポーツのような体力を必要としないこともあり、超高齢化社会の中、シニア世代で音楽教室に通う人も増えた。中でも、ピアノは安定した人気という。西田敏行さんのヒット曲「もしもピアノが弾けたなら」ではないが、人生の後半戦でそんな夢をかなえた人もいる。

人生100年クラブ



ピアノを弾きたい

「高齢で始めても上達」

約60年の歴史があり、都内で音楽教室を運営する「一音会ミュージックスクール」(東京都豊島区)は、シニアレッスンにも力を入れ60代以上の生徒は珍しくない。幼少期に習った人が多いが、子どものレッスンに付き添ううちに習い始めた人や全くの初心者も。江口彩子校長(51)は「ピアノは幾つで始めても必ず上達します。1日10〜15分でも確実に上手になります」と語る。

●認知症予防効果も

ピアノコースの最高齢生徒は杉並区の会社役員、栗田瑞夫さん(87)。「生徒さんは皆、若々しい。難しい曲に果敢に挑む人は元氣です」と江口校長が語る通り、栗田さんはユーモアを交えておしゃべりするなどは「はつらつ」している。ピアノの前に座ると、大好きというベートーベンの「熱情第2楽章」「月光」をほとんど楽譜を見ずに、なめらかな指遣いで情感たっぷり弾いてくれた。

大学時代にピアノに興味を抱いたが、本格的に習ったことはなかった。一線を退いてから自らも所属する日本工業倶楽部が毎年開催する音楽発表会への出演を目標に一音会で集中的に練習を始めた。毎日15〜30分ほど練習し、気が向くと2時間にわたる。「好きな曲が弾けたらいい」と楽しむことが大切と話す。

シニア世代のピアノレッスンについて、講師の芦田くみさんは、「レッスン後の雑談や発表会で人に聴いてもらうことが励みになっているようです」と語る。江口校長は「両手の動きが異なり、リズムや音の高低など多くの情報を取り込むので脳のトレーニングになります」と勧める。

全国で音楽教室を運営するヤマハ音楽振興会(東京都目黒区)でも、子供向けコースに加え「ヤマハミュージックレッスン」で、シニア層の生徒を積極的に募る。2015年の統計では生徒の平均年齢は49・8歳、最高齢は92歳だった。ピアノは全世代で人気で、比較的高い年齢層でもオカリナやウクレレと並び人気があるという。

【谷本仁美】



もっと知りたい